

「国語総合」の指導と評価の工夫

第3集

国語実践の会—FROM T

目 次

巻頭言	町田 静隆 (全国高等学校国語教育研究連合会 会長 東京都立竹台高等学校 校長) …… 1
はじめに	廣瀬 愛 (東京都立板橋有徳高等学校) …… 2
研究	
I 平成22年度研究	
◇「国語総合」の指導と評価の工夫 —オリエンテーションの工夫で年間の指導を充実させる— 研究概要・資料	松原 志保 (東京都立国立高等学校) …… 3 滝澤 美恵 (東京都立美原高等学校) 北川 すみれ (東京都立西高等学校)
II 平成23・24年度研究	
◇「国語総合」の指導と評価の工夫 —新学習指導要領への移行— 研究概要	廣瀬 愛 (東京都立板橋有徳高等学校) …… 16
社会的な話題についてのスピーチを通して考えを広げ深める	宗京 少織 (東京都立青梅総合高等学校) …… 22
他教科や HR 活動の中で調査、収集した情報をもとにしたプレゼンテーションを通して資料 を用いて効果的に話す	新垣 智史 (東京都立大島高等学校) …… 35 酒井 清香 (東京都立西高等学校) 廣瀬 愛 (東京都立板橋有徳高等学校)
会員名簿	…… 52
あとがき	松原 志保 (東京都立国立高等学校) …… 53

執筆者の所属校は研究年度のものである

「国語実践の会 フロムーT」 結成10年に寄せて

町田 静隆 (全国連・都国研会長・竹台高校校長)

「国語実践の会 フロムーT」は、都立高校に勤務する若手の国語教員による自主勉強会として平成14年秋に発足しました。

わが都国研では、昭和37年の発足以来、研究部に属する現代文、古文、漢文のそれぞれの部会が、研究授業を中心にかなり熱心に研究活動を行ってきました。しかし、平成5年ぐらいからその研究活動が急に衰退しだしてきました。原因としては、新規に採用される教員がほとんどいなくなり、教員の年齢構成が急に上がってきたことです。今まで研究授業を引き受けてくれていた中堅教員もみなベテランとして校務運営の中核を担うことになり、正直言って研究授業どころではないという状況でした。また、若手の教員からの、授業をどう行うかを知りたいので研究授業を見たいという要望も少なくなりました(要望そのものが少なくなったのではなく、若手の教員そのものがいなかったのです)。記録を見ると、平成17年には研究授業の企画ができませんでした。当時、研究部の取りまとめをしていた我々にしても、忸怩たる思いがありました。しかし、そうした逆風の中、危機感を持っていた若手教員の中から、自分たち自らの手で実力をつけていく勉強会を作ろうという機運が出てきました。こうして作られたのが、この会です。彼らはその設立の趣旨として、

- 全国連・都国研の研究活動の活性化を図る。
- 10年後の東京(日本)の国語教育を担う人材の育成を図る。
- 会員一人ひとりの授業(指導と評価)の改善を図る。

の3つを掲げました。また、「フロムーT」という名は、from Tokyo—東京から発信する—という思いでつけたものと聞いています。以来、『国語総合』の指導と評価の工夫」という冊子は、平成16年度と平成20年度の2号にわたって、それまでの成果をまとめたものとして発刊され、世にその評価を問うてきました。今回、この3号をここにお示しすることになります。10年間取り組んできたことのまとめという意味でも、また、来年度からの新学習指導要領の本格実施という節目を迎えるという意味でも、また皆様のご批評をいただき、彼らはさらに成長していくものと思います。彼らの継続した努力もあり、また、団塊世代の大量退職によりここ5、6年でどっと増えた若手教員の熱意もあり、ようやくわが都国研も本来の研究活動を取り戻しつつあります。この会からは、東京の国語教育を担う人材も輩出するようになりました。今後のこの会の成長にさらに期待しております。

はじめに

1 「国語実践の会—フロムT」とは…

本会は平成14年秋に立ち上げられた、「東京都立高校国語科教員の自主勉強会」である。会の設立の趣旨として以下の点を掲げ、同年12月に第1回の会合が開かれた。

- 全国連（全国高等学校国語教育研究連合会）・都国研（東京都高等学校国語教育研究会）の研究活動の活性化を図る
- 10年後の東京（日本）の国語教育を担う人材の育成を図る
- 会員一人ひとりの授業（指導と評価）の改善を図る

また活動方針として、以下の点を掲げている。

- ① 研究テーマは提案性のあるものとする
- ② 活動を継続する
- ③ 生徒の国語力をつけると同時に教師自身の授業改善を図る
- ④ グループ研究とすることによって自己の実践をより深いものにする。
- ⑤ 東京から発信する（=from Tokyo）

以来、平成24年秋の現在まで勉強会を続けている。全国連事務局の下部組織という位置付けではあるが、実態としては都立高校国語科教員による自主勉強会である。毎月1回程度の定例会を中心に指導案検討や教材開発、国語教育について協議・意見交換することで、会員の授業力の向上を図ることを目的としている。そして、例年2月に行われている都国研の実践研究発表会でその年度の研究について発表することを目標に、継続的なグループ共同研究に取り組んでいる。会員の所属の異動等により入れ替わりはあるが、年度ごとに研究テーマを設定し、研究活動を継続している。

ところで、会の名称である「フロムT」であるが、これは、名称決定時（平成15年春）の会員の頭文字をつなげて作ったと聞いた記憶がある。しかし、“from T”とは先に挙げた活動方針⑤にある“from Tokyo”（東京から発信する）であり、“from Teachers”（日々生徒たちと向き合う授業実践者の立場から発信する）の意味でもあると考えている。

2 本冊子について

平成10年度に学習指導要領の改訂があり、高等学校国語科では「国語総合」が新設された。平成15年度からの実施に向け、会設立当初の研究テーマを「『国語総合』の年間指導計画及び学習指導計画の作成—目標に準拠した指導と評価の実現をめざして—」として活動を続けてきた。詳細は省略するが、16年度の全国連東京大会では、東京都立千早高等学校を会場に、研究授業と研究発表を行った。その際に『「国語総合」の指導と評価の工夫』という小冊子を刊行し、全国連東京大会参加者に配布した。それ以外にも関係各位のご協力によりさまざまな場面で配布いただいた。また、平成20年にはその続編となる「第2集」をまとめ、同じく多くの方々にご覧いただくことができた。

本冊子はさらにその続編という位置づけになる。そして、その内容は都国研実践研究発表会の配布資料を元に、「第2集」以降の研究成果をまとめたものである。各章をご覧いただき、今後の研究をより充実したものとするため、さまざまなお立場からのご意見をお寄せいただければ幸いである。

I 平成22年度研究

「国語総合」の指導と評価の工夫

—オリエンテーションの工夫で年間の指導を充実させる—

1 主題設定の理由

学校の個性、特色化を強く求められている今、入学してくる生徒の義務教育段階における指導事項の定着度もその生徒、学校ごとに大きく異なる。年間の指導と評価の計画作成にあたっては生徒の現状を正確に把握し、反映させることが不可欠である。

そこで、今年度は研究テーマを「年間の指導を充実させるためのオリエンテーションの工夫」とした。これまでフロムTでは「年間の指導と評価の計画」の中でも3領域の指導に関わる単元を中心に研究し、実践を行ってきた。しかし、今年度は視点を変え、関心・意欲・態度を高め、年間の3領域指導を充実させるために年度初めのオリエンテーションの単元化を試みた。

オリエンテーションの扱いについては以前から指摘をいただいていた。会としても再考の必要があると考えていた。また、今までに多くの工夫、実践があったはずであるが、こうした研究発表の場で取り上げられることが少なかったテーマではないかといえる。さらに、新学習指導要領の総則の中に配慮事項として発展的・系統的な指導、義務教育段階の学習内容の確実な定着、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることが示されていることもあり、今後の国語科における指導を考えるうえで意義のある研究ではないかと考えられる。

2 実践計画

国語総合の授業は、中学校における学習内容に基づき、系統性をもって発展させることが前提である。そのためには高等学校で授業を始めるにあたり、生徒が中学校でどのようなことを学習してきたのかを把握する必要がある。生徒も教師も中学校で学習した内容を確認することで、高等学校の国語総合の授業展望を持つことができると考えた。

そこで私たちは、まず各自がこれまでに実践してきたオリエンテーションの資料を持ち寄り、それぞれの実践について意見交換を行った。その中で、中学校での学習内容との系統性や今後の学習への展望という視点から各自の実践を見直した。年間の指導を充実させるためのオリエンテーションという観点から、生徒が言語活動を通してこれまでの学習内容を振り返り、今後の見通しをもてるような単元化を試みることにした。

【国語総合（一人の教員が現・古両分野を担当する場合）】

オリエンテーションでは、中学校で学習した内容について、個人で振り返るよりも多くの情報を共有し、お互いに確認できるよう、グループ活動を取り入れた。

●第1時は、教師や学級生徒に関心を持ち、グループ学習を行いやすい土壌を形成する。その上で、読むこと（近代以降の文章を教材とした指導）において身に付けた内容をグル

ープで話し合い、知識・理解の確認を行う。あわせて高等学校で有効なグループ学習についても学ぶ。話し合いはワークシートに基づき、今まで学習した文の種類（評論・小説・詩・短歌・俳句など）を挙げ、それぞれの特徴・具体的作品名・言語活動（読む・書く）・学んだ用語について振り返る。最後にまとめを教員が提示する。

●第2時は、話すこと・聞くこと、書くことについてワークシートに基づき振り返る。古典の文章を教材とした学習内容についても確認する。多くの情報を共有できるよう、前時とは、別のグループを編成する。中学校の学習内容が確認できたところで、高等学校の国語総合を1年間の展望のもとに学ぶ意欲を持つことができるよう、教員が説明を行う。ガイダンスのまとめとして、国語総合でどんなことを学びたいか、生徒は抱負を一言で書く。ノートの第一ページに書き（また短冊を貼り）、随時初心の確認と1年終了時の総括に活用するものとする。

※学習指導案を資料Aとして別に添付した。

【国語総合（古典分野）】

国語総合（古典）では、基礎的な文語の決まりや訓読の決まりを読みの学習が始まる前に理解することで、これから始まる古典学習をスムーズに進めることができるようにした。

●第1時は古典の年間学習計画を確認し、自己紹介カード（資料1）に記入させたあと五十音図と「いろは歌」のワークシート（資料2）に取り組みさせることにした。

生徒たちの実態を把握するために資料1を用意した。また、国語総合をあわせてもつ場合にも行ったように、ノートの最初に授業の抱負を書かせ、一年間たったあとに振り返らせてもよい。資料2では、五十音図を現代語、古語のどちらもすべて書かせることで、曖昧だった語を把握できるようにし、歴史的仮名遣いの「ゐ」と「ゑ」については、きちんと書くことができない生徒が多いので、マスを四等分し、何度か練習させることにした。いろは歌は、読みが現代の読みと違うので、歴史的仮名遣いの読みが現代と違うことに気付かせることができるので取り上げた。

●第2時は、前時の復習として古語のワ行を書かせた。そして、前時の「いろは歌」を音読し、歴史的仮名遣いの読み方をまとめた資料3について説明し、練習をさせることとした。ワークシートに「○△×で評価」とあるのは、生徒自身にワークシートの内容が理解できたかを評価させることで、自分自身が振り返って勉強するときに分からなかったところを重点的に勉強するための目安となるようにした。

●第3時は、前時の歴史的仮名遣いの小テストを行い、現代語訳の留意点、品詞の種類、文節、活用形、辞書の引き方について理解させることとした。

現代語訳の留意点、品詞の種類、言葉の単位、活用形（資料6、7）は、最低限の基礎的なことだけに留め、文法アレルギーを引き起こさないよう、中学の時にもやったことがある程度に抑えた。

辞書の引き方（資料8～10）は、生徒の実態に合わせて使えるよう、三種類用意した。資料8は、一緒に探す練習をワークシートでやり、辞書を引いた時に出てくる用語を確認し、意味調べをした場合の書き方を統一させる方法をとった、資料8は、品詞の理解があやふやな生徒や辞書を引く習慣がない生徒を対象とする。

資料9は、品詞がある程度識別できる生徒を対象として作成した。源氏物語、徒然草、枕草子など、生徒が知っている作品の中から、現代語とは違った意味を持つ語を取り上げて、辞書を引かせることとした。時間があれば、現代と意味の違う言葉の紹介をし、実際に辞書で引かせてみるのも良い。

資料10では、百人一首と徒然草序段を取り上げ、徒然草については、自力で訳をつけさせるようにした。予習で、自分の力で訳をつけてくることを求めることのできる生徒を対象とした。

●第4時は、漢文が日本の古典で現代につながっているという意識を持たせるために、よく知られている論語の「温故知新」の部分を取り出し、孔子の言葉をどのようにして昔の日本人が日本語として理解できるようになったのかを白文から順に挙げてみた。その際に中国から伝わってきた文をもとの形を保ったまま、返り点を付けたり送り仮名を付けたることで、日本語として読むことができるようになったことを確認させた。また、故事成語や四字熟語を挙げさせ、時間があれば意味や由来を調べさせることとした。

資料1～11のワークシートは、すべてノートに貼らせ、振り返り学習ができるようにした。関心・意欲・態度については、読む学習において、継続的に見ていくこととする。

ワークシートの内容は、授業の進度にあわせて、分割してやることもできる。

※学習指導案を資料Bとして別に添付した。

3 今後の課題

生徒と教師、科目との出会いの時間であるオリエンテーションは、これまでも先生方がそれぞれに様々な工夫をされてきたところである。高等学校においては、生徒がこれからの学習内容の見通しをもつ、という点においてオリエンテーションが活用されることが多いと思われるが、目の前の生徒たちが中学校でどのような力を身に付けて入学してきたのかという点については、それほど重要視されてこなかった実態があるのではなかろうか。年間の指導と評価の計画の中で最初の単元として位置付けられるオリエンテーションにおいて、中学校での学習内容を把握することはその後の指導方法を考えるためにも大切なことであると考えられる。

私たちフロムTは今回の研究において、それぞれのこれまでの実践をもとにオリエンテーションの単元化を試みた。今後は様々なタイプの学校で実践に移してこの単元の更なる課題を洗い出し、生徒の主体的な学習活動につなげるための基礎となり、その後の単元の指導に生きるような内容へと改善を進めたいと思う。そして、このオリエンテーションをはじめとして、年間を通して生徒の興味・関心を引き出すための教材開発を進めるとともに、指導方法の改善を続けていく必要があると考えている。

新しい学習指導要領が平成25年度の入学生から実施されることを見据え、これまでに作成した「年間の指導と評価の計画」の改訂も含めて、グループ研究のよさを生かした実践研究を今後も継続していきたい。

資料 A

単元の指導と評価の計画

1 単元名
国語総合 ガイダンス

2 単元の目標

- ・中学校までに学習した国語の内容（言語の能力や活動）を確認する。（知識・理解）
- ・高等学校国語総合で学習する内容について、主体的に学ぼうとする。（関心・意欲・態度）

3 評価規準

単元の 評価規準	ア 関心・意欲・態度 ・ガイダンスを基に、国語総合の学習内容に対する関心を深めようとしている。	ウ 知識・理解 ・教材や学習に必要な用語を理解している。
-------------	--	---------------------------------

4 単元の指導計画（2時間扱い）

時間	各時間の目標	学習活動 (下線部が主たる言語活動)	言語活動と 評価の方法
1	・読むこと（近代以降の文章を教材とした指導）において身に付けた内容について確認する。 ・グループ学習について学ぶ。	・近代以降の文章について身に付けた内容を、グループで話し合うことを通して振り返り確認する。あわせてグループ学習（4人×10班）の方法を理解する。 ・ワークシートにまとめ、提出する。	話し合いの様子とワークシートの記述の確認 【留意事項】国語総合の学習に関心・意欲をもつ項目も用意する。
2	・前時の学習内容について確認する。 ・話すこと・聞くこと、書くことの学習内容について振り返り、確認する。 ・読むこと（古典の文章を教材とした指導）について振り返り確認する。 ・国語総合の学習について理解する。 *イタリックス：副次的、継続的に見る内容である。	・前時のワークシートを参考に、文の種類・用語の確認をする。 ・グループで次のことについて話し合う。 ①「話す・聞く・書く」の学習について、振り返り確認する。 ②古典の学習について、振り返り確認する。 ※このグループ学習については、授業の時間に応じて、グループごとに①、②の話し合う内容を分担することも考えられる。 ・国語総合を1年間の展望をもって学ぶ意欲を持つ。（持ち物・年間授業計画・授業の受け方・予習・復習・ノート作成方法・定期考査と評価・評定について等の説明を受ける。） ・国語総合でどんなことを学びたいか、抱負を一言で書く。	同上 【留意事項】前時とは別の班にて学習する。

☆国語総合の最終授業において、本ガイダンスと照応させるべく、次のような授業を展開し、閉講する。

☆授業例：「国語総合の1年間の授業を振り返り、一番よかったと思う授業を、ノートを利用してまとめなさい。」（関心・意欲・態度）

組	班	司会	第一発言者	第二発言者	書記
---	---	----	-------	-------	----

文の種類	特徴	具体的作品	読んだ 書いた		学んだ用語

○国語の時間で読んだことがある、書いたことがある。
◎国語の時間でもっと読みたい、書きたい。（1~2）
←こんなことをやりたい。

組	班	司会	第一発言者	第二発言者	書記
---	---	----	-------	-------	----

具体的内容	学んだこと	授業時間数		
		1年	2年	3年
話すこと				
聞くこと				
書くこと				

○やったことがある。
◎高校でもまたやりたい。

Ⅲ ガイダンス 古典

組	班	司会	第一発言者	第二発言者	書記
---	---	----	-------	-------	----

古文・漢文	どんなことをやりましたか。(音読・話し合い・暗唱 調べて発表するなど。)	具体的作品	感想	覚えている文があれば 書いてください。
古文				
漢文				

○やって楽しかった。
◎またやりたい。

資料B

単元の指導と評価の計画

- 1 単元名
国語総合
- 2 単元の目標
 - ・ 古典を読むための基礎的な文語の決まりなどを確認する。
国語総合【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(イ)】
 - ・ 国語総合で学習する古典の内容について、主体的に学ぼうとする。
(関心・意欲・態度)

	ア 関心・意欲・態度	ウ 知識・理解
単元の 評価規準	古典の学習を進めるための基礎的な事項を理解して主体的に学ぼうとしている。	古語の五十音図、歴史的仮名遣いの読み方、現代語訳の留意点、品詞の種類、言葉の単位、活用形、辞書の引き方、訓読の成り立ちなどを理解している。

4 単元(題材)の指導計画(4時間扱い)

時間	各時間の目標	学習活動	言語活動と評価の方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典の年間学習計画を知る。 ・ 古語の五十音図と「いろは歌」について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典の年間学習計画や授業の進め方を聞く。 ・ 自己紹介カードに記入する。 資料1 五十音図と「いろは歌」のワークシートに取り組む。 資料2 	ワークシートの記述の確認
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的仮名遣いの読み方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に習った「いろは歌」を音読する。 ・ 歴史的仮名遣いの読み方の説明を聞く。 ・ ワークシートの問題に取り組む。 資料3 	ワークシートの記述の確認
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代語訳の留意点、品詞の種類、文節、活用形を理解する。 ・ 辞書の引き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的仮名遣いの小テストに取り組む。 資料4 ・ 現代語訳の留意点、品詞の種類、言葉の単位、活用形のワークシートに取り組む。資料6、7 ・ 辞書の引き方について説明を聞く。 ・ 実際に辞書を引いて調べる。資料8~10 	小テストの点検 ワークシートの記述の確認 行動の観察
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文は日本の古典で現代につながっているという意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語の原文を保ちながら、日本語に翻訳して読む訓読法を昔の日本人が編み出したことの説明を聞く。 ・ ワークシートに取り組む。 資料11 	ワークシートの記述の確認

- ・ 関心・意欲・態度については、読む学習において継続して見ていくこととする。
- ・ 必要な時に主体的に振り返り学習ができるよう、ワークシートはすべてノートに貼らせる。
- ・ 資料5は4時間目に使用し、資料8~10は、生徒の実態に合わせて使い分ける。
- ・ 3時間目は、古文特有のもの、4時間目は漢文特有のものとした。生徒の実態に合わせ、小分けにしながらやっていく場合もある。

歴史的仮名遣いとその読み方① (古文を読むために①)

組 番号前

目標 歴史的仮名遣いの読み方を理解しよう。

○×で評価

歴史的仮名遣いの読み方
歴史的仮名遣いのわ行は、
と書へ。

読み方	例	問題
み・糸・を	をこ	ぬなか
ち・つ	聴ざたり	みつ
は・ひ・ふ	あはれ	言ひける
へ・ほ	うへ	いほり
む	咲きなむ	あらむ
くわ・くわ	過密 <small>くわみつ</small>	外戚 <small>くわいせき</small>

長音で発音する場合

読み方	例
あう	かう ↓
あひ	きう ↓
いひ	けう ↓
えひ	

eu ↓ yo iu ↓ yu au ↓ ou
keu ↓ kiu ↓ kau ↓

歴史的仮名遣いとその読み方② (古文を読むために②)

組 番号前

目標 歴史的仮名遣いの読み方を理解しよう。

○×で評価

あう・あひ	いひ・いふ	えう・えひ
かう・かひ	きひ・きふ	けう・けひ
さう・さひ	しひ・しふ	せう・せひ
たう・たひ	ちひ・ちふ	てう・てひ
なう・なひ	にひ・にふ	ねう・ねひ
はう・はひ	ひひ・ひふ	へう・へひ
まう・まひ	みひ・みふ	めう・めひ
やう・やひ	いひ・いふ	えう・えひ
らう・らひ	りひ・りふ	れう・れひ
わう・わひ	むひ・むふ	めう・めひ

自己紹介カード

組 番号前

古典は好き、
○をこめひ。

非常に好き
好き
普通
嫌い
非常に嫌い

出身中学校

長所

短所

趣味

好きな科目

嫌いな科目

高校に入る前の高校のイメージ

高校に入学して感じたこと

将来の夢 (大学・短大・専門学校・就職 具体的に)

その他 (知っておいて欲しいことや、要望など)

現代語と古語の違い

組 番号前

○×で評価

目標 現代語と古語の違いを理解しよう。

◎ 次の五十音図をひらがなで書いてみよう。
現代語(口語)の五十音図

古語(文語)の五十音図

ア行	ア	イ	ウ	エ	オ
カ行	カ	キ	ク	ケ	コ
サ行	サ	シ	ス	セ	ソ
タ行	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ行	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ行	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ行	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ行	ヤ	ユ	ユ	ヨ	
ラ行	ラ	リ	ル	レ	
ワ行	ワ	ヰ	ヱ	ヰ	

◎ 「ぬ」と「ぬ」の練習

ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ
---	---	---	---	---	---

◎ いろは歌を書いてみよう。

いろは	ひろは	ふろは	ぶろは	ぶろは	ぶろは
あ	い	う	え	お	か
け	こ	さ	せ	そ	た
ち	て	な	に	ぬ	ね
わ	を	ま	め	も	や
え	い	う	え	お	か
あ	い	う	え	お	か
ゑ	い	う	え	お	か
ゑ	い	う	え	お	か
ゑ	い	う	え	お	か
ゑ	い	う	え	お	か
ゑ	い	う	え	お	か
ゑ	い	う	え	お	か

品詞の種類と活用形

古文を読むために4

組 番号

○××××

品詞の種類

品詞の種類と活用形を理解して、ひらがなで答えなさい。

Table with columns for word classes (名詞, 動詞, etc.) and their活用形 (活用止, 活用し, etc.).

活用形代り、活用形代りして語の形が変化すること。例「花咲けり。」

活用形代り、活用形代りして語の形が変化すること。例「花咲けり。」

Table with columns for word classes and their活用形 (活用止, 活用し, etc.).

古語辞書の読み方

古文を読むために5

組 番号

○××××

目録

辞書の読み方を理解して、ひらがなで答えなさい。

① 品詞の種類と活用形を理解して、ひらがなで答えなさい。

辞書の「コピ-」を貼付

- List of items to be copied from a dictionary: 品詞の種類と活用形, 古語辞書の読み方, etc.

Table with columns for word classes and their活用形 (活用止, 活用し, etc.).

現代語訳の留意点と言葉の単位

古文を読むために3

組 番号

○××××

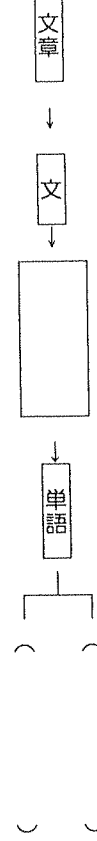
目録

現代語訳の留意点と言葉の単位を理解して、ひらがなで答えなさい。

○××××

現代語訳で注意する点

- List of points to note in modern Japanese translation: ① 火出へ来へて、交書ぬ妻子女代も、...



現代語訳の留意点と言葉の単位を理解して、ひらがなで答えなさい。

① 花が咲く。> 現代語

② この白き花、美しく咲きけり。

③ 今は昔、比叡の山に見ありけり。

問一 問一の③の文を単語に区切りなさい。

今は昔、比叡の山に見ありけり。

歴史的仮名遣いの読み方テスト

組 番号

○××××

歴史的仮名遣いをひらがなで現代仮名遣いに改めなさい。

Table for historical kana reading test with columns for original characters and modern kana.

品詞の種類小テスト

組 番号

○××××

品詞の種類小テスト

- List of words for classification: ① 今は昔、竹取の翁とていふ者ありけり。...

Table for word classification test with columns for word and category.

漢文を読むために1

組 番 名前

○××で評語

目標 漢文は日本の古典で現代につながっていることを読みとることができた。

1 中国の古典から日本の古典へ

- a 子曰温故而知新可以為師矣
- b 子曰温故而知新可以為師矣
- c 子曰「温故而知新、可以為師矣。」
- d 子曰「温故而知新、可以為師矣。」
- e 先生が言われた。「古典や歴史を学んで、現代に通用する意義が発見できるものがあれば、人の師となることができるだろう。」

「子」とは、中国の春秋時代（前五百百年頃）に生きた思想家のその弟子たちとの問答を納めた書物を指す。四世紀頃日本に伝わってきた。

四字熟語

□ □ □ □

過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解を見いだす。

2 知っている故事成語・四字熟語を挙げてみよう。

3 2で挙げた言葉の由来を調べてみよう。

資料 9

古語辞典の引き方

(古文を読むための1)のB)

組 番 名前

○××で評語

辞書を引くときの注意する点	辞書で引くときの言葉
1 歴史的板名遣いで引く。 ①い・え・お ↓ ぬ・あ・を ②じ・す ↓ ち・う ③長音で読んだもの→表示された語「うみうみ」(読み「うみ」) 例「うみうみ」(読み「うみ」) 「うみうみ」(読み「うみ」)	①幼し ↓ をさなし ②大路 ↓ おほち ③方丈記 ↓
2 活用語は 基本形(終止形)に直して引く。 ①助動詞 → 基本形を覚える。 ②形容詞 → 「う」の音「い」で。 ③形容動詞 → 「なり」「たり」だが、語幹で引く。 ④動詞 → 「う」の音「い」で。	①向かはす ↓ 向から ②長 ↓ 長し ③あはれ ↓ あはれ

問1 傍線の語を辞書で引く形に直してなさい。
 ① 徒然草 徒然草 徒然草 徒然草
 ② 徒然草 徒然草 徒然草 徒然草
 ③ 徒然草 徒然草 徒然草 徒然草

辞書の語	辞書で引く言葉	現代の意味
あひらひ	あはれ	あはれ
あひらひ	あはれ	あはれ
あひらひ	あはれ	あはれ

資料 10

古語辞典の引き方

(古文を読むための1)のC)

組 番 名前

○××で評語

辞書を引くときの注意する点	辞書で引くときの言葉
1 歴史的板名遣いで引く。 ①い・え・お ↓ ぬ・あ・を ②じ・す ↓ ち・う ③長音で読んだもの→表示された語「うみうみ」(読み「うみ」) 例「うみうみ」(読み「うみ」) 「うみうみ」(読み「うみ」)	①幼し ↓ をさなし ②大路 ↓ おほち ③方丈記 ↓
2 活用語は 言い切りの語尾を基本形(終止形)に直して引く。 ①助動詞 → 基本形を覚える。 ②形容詞 → 「う」の音「い」で。 ③形容動詞 → 「なり」「たり」だが、語幹で引く。 ④動詞 → 「う」の音「い」で。	①向かはす ↓ 向から ②長 ↓ 長し ③あはれ ↓ あはれ

問1 次の百入一首の傍線の語を辞書で引く形に直してなさい。
 ① 徒然草 徒然草 徒然草 徒然草
 ② 徒然草 徒然草 徒然草 徒然草
 ③ 徒然草 徒然草 徒然草 徒然草

自力訳

解説

徒然草序段

「国語総合」の指導と評価の工夫

—新学習指導要領への移行—

1 主題設定の理由

平成21年に高等学校学習指導要領の改訂が行われた。この、新高等学校学習指導要領は一部科目の先行実施を経て、平成25年度入学生から年次進行により実施される。改訂の趣旨を踏まえ、今後、高等学校国語科においてどのような指導がなされるべきかを検討し、具体化することでスムーズに移行できるよう備える必要がある。そこで、平成23・24年度は研究テーマを「国語総合」の指導と評価の工夫 —新学習指導要領への移行— とした。

2 研究計画

これまでフロムTでは指導と評価の一体化、重点化をテーマに「年間の指導と評価の計画」に基づく様々な単元案を作成し、実践してきた。この流れをふまえ、平成22年6月に文部科学省から示された「高等学校学習指導要領解説 国語編」、平成24年3月に国立教育政策研究所教育課程研究センターから示された「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）」等の資料を参考に新学習指導要領以降後の国語総合における「年間の指導と評価の計画」を作成し、そのうちの新たに設定したA領域2単元については詳細な「単元の指導と評価の計画」を作成、実践することとした。

3 研究の実際と進行状況

はじめに、本研究は現在進行中であるということをお伝えしておかねばならない。以降、お示するのは平成24年9月現在の状況である。資料収集を行い、学習指導要領の改訂の趣旨を理解することから研究をスタートさせた。そして、一定の方向性が理解できたところで、新旧の学習指導要領の対照表を用いて、国語総合における指導事項がどのように変更されたのかを具体的に確認した。その後、現行の学習指導要領に即して作成されたフロムT版「国語総合」年間の指導と評価の計画（2008.2.15改訂第4版）に配置された単元を軸に、学習指導要領の改訂を反映させた単元のあり方とそれらの単元の配置を検討することとした。

しかしながら、現時点では現行の学習指導要領を元に作成された「年間の指導と評価の計画」単元を単純に移動させたに過ぎず、まだまだ多くの調整が必要な状態である。今後は「小学校、中学校からの系統性」「年間の指導における系統性」、「他教科との連携」、「効果的な言語活動」、「社会や生徒の実態に即した教材選定」など様々な観点からより効果的な指導や評価のための単元を考え、適切に配置していくなど、工夫を重ねていかねばならない。

環境の大きく異なる複数の現場で、各会員が目前の生徒たちの現状をふまえ、行った実践をもとに、多面的に事象をとらえ、改善のアイデアを得ることができるといのがグループ研究の魅力である。その特性を活かし、今後も検討を重ねて行きたいと考えている。

新旧指導事項対照表

領域	新学習指導要領		現行学習指導要領	
	指導事項	単元	指導事項	単元
A	ア	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	ア	様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べること。
	イ	目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	イ	目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
	ウ	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方を工夫して話し合うこと。	ウ	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。
B	エ	話したり聞いたり話し合ったことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、考え方を豊かにすること。	該当なし	該当なし
	ア	「効果的な表現」の内容が具体化されている「文章の形態」「文法」「語句」	ア	相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと。
	イ	「論理に基づいて書く」ことがより重視されている	イ	論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。
C	ウ	対象の確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	該当なし	該当なし
	エ	優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、考え方を豊かにすること。	ウ	優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること。
	ア	文章の内容や形態に応じて表現の特色に注意して読むこと。	イ	文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。
オ	イ	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	ア	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。
	ウ	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	ウ	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
	エ	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	エ	文章の構成や展開を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。

「国語総合」年間の指導と評価の計画 (フロムT 2012.10.18 作成 新学習指導要領対応 第1版)

学期	月	単元名	領域	指導事項 (身に付けさせたい言語能力)	評価規準	評価方法	教材等	言語活動	時数
1	4	オリエンテーション		国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をする。	国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をしようとしている。	記述の確認		話し合いをする	2
通年	通年	スピーチをする	A	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもつこと。	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもつこととする。	行動の観察 記述の分析	新聞 図書資料 インターネット	スピーチ をする	6
				話し合いしたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	話し合いしたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	行動の観察 記述の分析			
				話し合いしたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	話し合いしたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	記述の点検			
				話し合いしたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	話し合いしたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	記述の点検			
1	4	読むことを楽しむ	C	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	行動の観察 記録の分析	短編小説	現4	
1		叙述に即して読む	C	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や評述をしたりすること。	文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。	行動の観察 記述の分析	随想 評論	話し合いをする	現4
1	4	随筆文を書く	B	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書くこと。	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書いている。	記述の点検		随筆を書く	3
1	5	古典に親しむ	C	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	行動の観察 記述の分析	随話 故事小説	音読 暗唱	古4 漢6
1	5	広告文を書く	B	優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てようとしている。	記述の確認	広告	広告文を書く	2
1	5	内容を的確に読む	C	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や評述をしたりすること。	文章の内容を必要に応じて要約しようとしている。	記述の確認		要約をする	6
1	6	定型文を書く	B	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。	記述の点検		通知文や手紙を書く	4

学期	月	単元名	領域	指導事項 (身に付けさせたい言語能力)	評価規準	評価方法	教材等	言語活動	時数
1	7	表現に即して読む(1)	C	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	行動の観察 記録の分析	物語	音読	古6
1	7	様々な文章を読む	C	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	記述の確認 記述の分析		読書	現3
1	7	定期考査(2)				記述の分析	ペーパーテスト		2
2	9	プレゼンテーションをする	A	目的や場に応じて、効果的に話し合いの場に聞き取ったりしようとしている。	目的や場に応じて、効果的に話し合いの場に聞き取ったりしている。	記述の点検		プレゼンテーション	6
2	12				文や文章の粗立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。	記述の確認			
2	9	紹介文を書く	B	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。	記述の点検 記述の分析		紹介文を書く	3
2	9	詩歌を読む(1)	C	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	行動の観察 記述の分析	現代詩 漢詩	読み比べ 朗読	現3 漢4
2	9	人物に注目して読む	C	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	記述の点検 記述の分析	小説	音読	現6
2	10	記録文を書く	B	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書くこと。	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書いている。	記述の点検		記録文を書く	4
2	10	定期考査(3)				記述の分析	ペーパーテスト		2
2	11	報告文を書く	B	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。	記述の点検 記述の分析		報告文を書く	4
2	11	表現に即して読む(2)	C	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や評述をしたりすること。	文章の内容を必要に応じて要約や評述をしたりしている。	記述の点検 記述の分析	史話	要約文を書く	漢4
2	11	ものの見方や感じ方などに注目して読む(1)	C	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	記述の点検 記述の分析	随筆 (現代文・古文)	読み比べ	現5 漢5

単元の指導と評価の事例（凡例）

学期	月	単元名	領域	指導事項 (身に付けさせたい言語能力)	評価規準	評価方法	教材等	言語活動	時数
2	12	詩歌を読む(2)	C	ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	関心意欲態度 伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。	行動の観察	短歌 和歌	読み比べ 朗読	現3 古3
					読む能力 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	記述の分析			
					知識理解 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	記述の点検			
2	12	定期考査(4)				記述の分析	ペーパーテスト		2
2	12	表現の特色を確かめながら読む	C	エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	関心意欲態度 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価しようとしている。	記述の確認	日記 紀行	音読	古4
					読む能力 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価している。	記述の分析			
					知識理解 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解している。	記述の点検			
3	1	もの見方や感じ方などに注目して読む(2)	C	オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	関心意欲態度 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりしようとしている。	記述の点検	思想	暗唱 レポート	漢5
					読む能力 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりしている。	記述の分析			
					知識理解 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	記述の分析			
3	1	構成を確かめながら読む	C	エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	関心意欲態度 文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとしている。	—	評論	情報を読み取る	現4
					読む能力 文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えている。	—			
					知識理解 文や文章の総立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。	—			
3	2	説明文を書く	B	ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	関心意欲態度 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書こうとしている。	記述の確認	図表	説明文を書く	4
					書く能力 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。	記述の点検			
					知識理解 文や文章の総立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。	記述の点検			
3	2	討論する	A	ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重しようとしている。	関心意欲態度 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重しようとしている。	記述の確認	—	討論をする	6
					話す・聞く能力 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重している。	行動の観察			
					知識理解 文や文章の総立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。	記述の確認 行動の観察			
3	3	意見文を書く	B	イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	関心意欲態度 論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめている。	行動の観察 記述の確認	—	意見文を書く	6
					書く能力 論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめている。	記述の確認			
					知識理解 語彙を豊かにしている。	記述の確認			
3	3	定期考査(5)				記述の分析	ペーパーテスト		2
3	3	オリエンテーション	—	国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をする。	関心意欲態度 国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をしようとしている。	記述の確認			1

指導時数総計140時間(A話す・聞くこと18時間/B書くこと30時間/C読むこと79時間/定期考査等13時間)

1 単元名
「〇〇」(〇時間)

2 本単元のねらいと年間指導計画上の位置付け

→その単元で取り上げる指導事項、言語活動を示すとともに、単元設定の意図を解説している。

3 単元の目標

- ① (関心・意欲・態度)
- ② (話す・聞く/書く/読む能力)
- ③ (知識・理解)

→「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 国語)」の「各領域の評価規準に盛り込むべき事項」を参考に設定している。

4 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動
- (2) 教材

→「高等学校学習指導要領解説 国語編」第2章 第一節 国語総合 3内容に示された言語活動例を参考に、単元の目標を実現するにふさわしいものを引用または新たに設定している。

5 単元の具体的評価規準

→「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 国語)」の「評価規準の設定例」を参考に設定している。

関心・意欲・態度	話す・聞く/書く/読む能力	知識・理解

6 単元と評価の計画 (〇時間 〇次扱い)

→単元全体を授業の単位時間ごとではなく、指導内容のまとまりごとに「次」として示している。

次	具体的な評価規準と評価方法	学習活動

7 指導と評価の留意点

→詳細な学習活動を示す。また、目標の実現に対し、手だてが必要とされる生徒の姿や高いレベルで達成している生徒の姿をできるだけ具体的に示すようにしている。

【第〇次】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点

8 成果と課題(改善の視点)

→実践を通して得られた成果、より効果的に指導や評価を行うための気付きなどをまとめている。実践後の会員間の話し合いをもとに、様々な現場のありようを反映させた学習活動の別案などを提案することもある。

単元の指導と評価の事例（A 話すこと・聞くこと）

1 単元名

社会的な話題についてのスピーチを通して考えを広げ深める

（1年間を通じ、継続的に行う）

2 本単元のねらいと年間指導計画上の位置付け

本単元では、週2回程度、授業の最初に二分間のスピーチを継続的に行うことにより、広く社会への関心を育成することを目標とする。関心を持った話題の内容を要約して伝えるとともに、その内容に関する自分の意見を発表する。そのことによって、特に評論文を読むことや意見文を書くことにつながる土壌を広げることがねらいとする。

実践を行った本校は、教師の指導に対し、まじめに取組み素直に学習しようという姿勢を持っている生徒が多い。学力差はかなりあり、自分自身でものごとを考え主体的に学習しようとする力には不足する面がある。このような生徒たちの、関心を社会的話題に広げ、自分自身の考えを積極的に持つように力を付ける試みとして今回の実践を行った。

取り上げる学習指導要領の内容（指導事項）は、A領域「話すこと・聞くこと」のA「話題についてさまざまな角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること」、E「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」とする。その中でも特に下線部に注目して指導を考えた。本実践は、1年を通して長い時間をかけて行うので、前半の指導ではAを中心に置き、後半はEに重点を置くことにした。後半に関しては中学3年生の「話すこと・聞くこと」で指導していることと関連しており、定着の度合いに応じて必要と判断される生徒について重点的に指導することにした。また、言語活動例はA「状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。」を参考とした。

B領域「書くこと」のイ「論理の構成や展開を工夫して書くことに関する指導事項」及びエ「表現について考察したり交流したりして、考えを深めることに関する指導事項」と、C領域「読むこと」のイ「文章を的確に読み取ること、要約や詳述をすることに関する指導事項」及びオ「読書をして考えを深めることに関する指導事項」との関連を図り、学習者の論理的思考力の向上を目指す。

A領域の通年で行う帯の単元として、年間を通して身に付けるべき「話す・聞く能力」の育成と評価にも留意する。評価は、特に情報の内容に興味関心を持ち、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることに重点を置いている。「相互評価シート」では、情報の内容についての目標と基本的な技能の確認をわけて評価する。情報の内容については、①情報の内容を適切に伝達する、②自分の意見を明確に伝える、③発表内容に興味を持てるように伝えること、基本的な技能の確認として、A声の大きさ、B話す速さ、C発表の態度として評価した。また、「自己評価シート2」では、特に印象に残った記事について取り上げ、自己評価を行い、グループで話し合い学習をすることによって、情報の内容をより豊かに、考えたり感じ取ったりする時間を設けている。

3 単元の目標

- ・ 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもととする。
- ・ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・ 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもつ。
- ・ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。（話す・聞く能力）
- ・ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法について理解する。（知識・理解）

4 取り上げる言語活動と教材

(1) 言語活動 1年間を通じて、その時々話題を選び、継続的にスピーチすること。

(2) 教材 新聞、図書資料、インターネット等

新聞や雑誌、インターネット上のニュースなど、社会的記事を中心とした話題とする。新聞の社説なども可。毎時間印刷して配布し、聞き手はそれぞれ発表に関する評価と記録を行う。

5 単元の具体の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
話す内容に対する認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。	話す内容に対する認識や態度を自らの内部に形成している。	話すこと・聞くことに必要な文や文章の組み立てについて理解している。
相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機にしようとする。	相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。	話すこと・聞くことに必要な語句の意味、用法について理解している。

6 指導と評価の計画（毎時間5分《2分×2名》程度 継続して行う 3次扱い）

事前課題として、次のような工夫も行うことができる。

「入学前の春期休業中の課題として、新聞等の情報の要約とそれに対する意見を書く。」

この課題によって以下に示した中学校までの学習内容をおさえてあるか確認し、その結果によって、これからの内容を実施していくべき時期も変わってくる。

「話すこと・聞くこと」の中学校の指導事項

中学2年生 イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。

中学3年生 ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。

次	具体的な評価規準についての評価方法 (判断のよりどころ)	学習活動
1	<p>[知識・理解]</p> <p>話すこと・聞くことに必要な文や文章の組み立てについて理解している。</p> <p>話すこと・聞くことに必要な語句の意味、用法について理解している。</p> <p>【記述の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の内容の適切な部分に傍線を引けているか。 ふさわしい意見をメモできているか。 	<p><事前指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 配布されたプリント「二分間スピーチについて」を読み、これからの学習を確認する。 次週スピーチする生徒は、前の週までに「スピーチ用資料」を提出する。
2	<p>[話す能力]</p> <p>話す内容に対する認識や態度を自らの内部に形成している。</p> <p>【行動の確認・記述の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> 要約の内容と自分の意見を分けて伝えられているか。 資料の要約した内容を、的確に表現できているか。 自分の意見を明確に伝えられているか。 <p>[聞く能力]</p> <p>相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。</p> <p>【記述の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表者の意見を理解できているか。 話し手の考えを自分の考えと照らし合わせて自分の考えを深め広げられているか。 	<p><2名程度 毎時間 繰り返す></p> <p>[スピーチをする生徒の学習活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2分間で「スピーチ用資料」の内容要約と自分の意見を分けて発表する。(用意された原稿をただ読むのではない。スピーチ用資料の例参照) スピーチが終わったら、発表を振り返って「自己評価シート1」を記入する。 <p>[スピーチを聞く生徒の学習活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布された「スピーチ用資料」をもとにスピーチを聞く。 スピーチの内容について「相互評価シート」に記入する。
3	<p>[関心・意欲・態度]</p> <p>話す内容に対する認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。</p> <p>相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機にしようとする。</p> <p>【行動の観察・記述の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチの仕方について、反省したり他の生徒のよい部分を学ぼうとしたりしているか。 	<p><一巡したら></p> <ul style="list-style-type: none"> 「自己評価シート2」の4・5を記入する。 4～5人のグループになり話し合う。 代表の発表者が、クラス全体に話し合った内容を発表する。 「自己評価シート2」の6を記入する。

・スピーチの話題について、他の生徒が選んできた話題に対し興味を持ち、自分の興味関心を広げようとしているか。

7 各時間の評価と指導の実際

【第1次】

学習活動	指導(◇)と評価の留意点(◆)
<p>○配布されたプリントの内容を確認し、学習に対する見通しもつ。</p> <p>①二分間スピーチについて</p> <p>②自己評価シート1</p> <p>③相互評価シート</p> <p>④A4白紙用紙 (情報を貼り付け、スピーチ原稿に)</p> <p>⑤スピーチ原稿準備用紙 (必要に応じて利用する)</p> <p>○担当の日一覧で、スピーチの日を確認し、前の週までに「スピーチ原稿」を確認する。</p>	<p>◇今回の目的は、社会への関心を広げること、効果的なスピーチの方法を学ぶことを確認する。</p> <p>◇新聞の要約と自分の意見の伝達を二分間で行うことを伝え、両者を明確に分けて伝達することを確認する。</p> <p>◇ファイリングについて、スピーチの手順を指示する。</p> <p>◇効果的なスピーチの仕方については、「二分間スピーチについてのプリント」で確認する。</p> <p>◆「スピーチ原稿に貼付した新聞記事に要約して内容を伝達するために適切に線を引いており、自分の意見が適切に表現できている」を判断のよりどころとする。</p>

【Aと判断する生徒の具体的な姿】

●「知識・理解」
情報の内容が短期的視野の内容でなく、社会的問題点を提案する内容を選び、それに対して自分の意見を根拠をふまえて書いている。

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】

自分が取り上げた情報の内容をもとに確認しながら、広がりを持たせる。

【第2次】一回のスピーチは2～3名

学習活動	指導(◇)と評価の留意点(◆)
<p>[スピーチをする生徒の学習活動]</p> <p>○発表者は二分間でスピーチを行う。</p> <p>○「スピーチ原稿」の内容を要約して発表する。</p> <p>○発表した情報に対する自分の意見を発表する。</p>	<p>◇生徒の発表後に、より普遍的な観点から問題提起している記事の場面を指摘したり、話題を提供したりして、次の生徒がより発展的内容の記事を選ぶように促す。</p>

【Aと判断する生徒の具体的な姿】

●「話す・聞く能力」
記事の内容を自分の言葉も交え、詳細にわかりやすく伝え、自分の意見も具体例などを示しわかりやすく相手に伝えている。

<p>○自分の相互評価シート（クラス全員分）が返却されたら、自己評価シート1に記入して提出する。</p> <p>[スピーチを聞く生徒の学習活動]</p> <p>○配布されたスピーチ原稿をもとに発表を聞く。</p> <p>○同時に発表者に対する相互評価シートへ記入する。</p> <p>○相互評価シートは回収して、評価を点検し、後日、発表者に自分のスピーチを振り返るために返却する。</p>	<p>◆相互評価表の数値は、あくまで生徒の学習活動であり、この時間の評価とはしない。</p> <p>◆「適切な話し方で記事の内容を発表でき、自分の考え方も教室全体に伝えることができている」「相手に的確に内容を伝える方法を知り、自分の改善点や努力点を意識できている」を判断のよりどころとする。</p>
--	---

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】
その話題の持つ社会的な意味・効果などを補足し、発表の内容を深める。

【第3次】全員のスピーチ終了後

学習活動	指導（◇）と評価の留意点（◆）
<p>○自己評価シート2の、4と5を記入し、スピーチ方法と内容を振り返る。</p> <p>○4～5人のグループをつくり、司会と発表者を決める。</p> <p>○グループ内で、よかったスピーチ方法と印象に残った発表内容を話し合う。</p> <p>○話題に上がった内容やその理由などを発表者が発表する。</p> <p>○「6 グループ討議を終えて」を記入する。</p>	<p>◇この帯単元の授業を通して、学んだスピーチの方法と興味を持った記事内容をわけて書くように確認する。</p> <p>◇スピーチの方法については、自分自身ができなくても、他の生徒から方法を学んでいるかどうか書かせるよう留意する。</p> <p>◇記事の内容については、その内容を聞くことによって、自分がどんなことを感じたかも書かせるようにする。</p> <p>◆『自己評価シート2』に記述した『4スピーチの方法』を学んでいる、と『5スピーチの内容』に興味の持った話題について詳しく記述している。また、グループ討議に積極的に取り組んでいる」を判断のよりどころとする。</p>

【Aと判断する生徒の具体的な姿】
●「関心・意欲・態度」
情報の内容に主体的に関わろうとする意欲・関心を持ち、多くの話題に関心を持っている。スピーチの効果的な内容を理解し、それを実践しようという意欲を持っている。

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】
自分とその情報との具体的な関わりを発見させ、情報の内容に興味を持たせる。

8 成果と課題（改善の視点）

成果と課題としては、以下のことが挙げられる。広く世の中の話題について、一人一人の興味関心に応じた話題と自分の考えを提示でき、生徒同士の興味関心を広げることができた。繰り返し行うことで、より上手に話そうという生徒の競う姿勢が見られた。より面白い記事を探そう、という機運が見られるクラスもあった。一方で、記事の内容が単発的で広がり欠ける内容が続くクラスもあり、生徒の社会に対する問題意識・興味関心の差は明らかである場合がある。このような場合に、教員がコメントする言葉が次の話題の収集に影響する場合も多い。生徒の足りない発表でも、限られた時間の中であるが、スピーチの後に話題について触れ、より広い観点から補足して興味関心をより引き出していくことが大切である。

帯単元で行う一つの意味は、長期間かけて行うことによって、記事の内容が変化していくことである。一クラスに40名いれば、40名の興味関心によって（進路意識と結び付けられることも多い）日々の出来事を長期間追っていきけることのおもしろさがある。

一方、最近は新聞を取っていない家庭も増えている。新聞以外の情報源として、インターネット上の新聞記事をURLを明記して印刷させることや、週刊誌の中から有効な記事が載っているような冊子を紹介したり、学校図書館と連携を図り、新聞や雑誌のコピーがとれる体制を工夫したりすることもできる。

高校入学間もない一年生に対し、この実践を「国語総合」のどの時期で行うかは、生徒の実態を見て工夫する必要がある。なぜなら、新聞などの社会的情報源に、もともと関心があるかどうかは、学力に比例する面があるからである。だが、1年生の半ばくらいから、社会に関心をもつということ、それに対して自分の意志を表明するという訓練を長期的に続けることによって、どのような学力の生徒であっても、将来自分がここで話題になっている世の中へ出ていくのだという意識が育てば、高校生としての成長につながるものと考えている。生徒の実態に合わせて、時期をずらしたり、内容のサポートをしたりしながら行っていく必要がある。学校設定科目でも可能であろうし、現代文Bの時間でも可能である。2年生、3年生で行えば、より大人としての視点が反映された記事を生徒たちは持つてくることであろう。

いずれにしても、スピーチそのものだけでなく、生徒が興味関心に応じて、話題の内容に対し考えを深めていくことが重要である。

*本研究は「国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか」（明治書院 2012年7月発行）に発表したものを、加筆・修正したものである。

二分間スピーチについて

学んでほしいこと

- ① 社会的話題を題材にしてスピーチすることで、社会への関心を持ち、広げる。
- ② 新聞等話題の内容を的確にまとめ、その内容に対する自分の意見を持つ。以上の二点をみなに伝える。
- ③ 多くの人に要点を説明する上で、効果的なスピーチの方法を学ぶ。

◎毎時間、授業の冒頭で二分間×2名の、新聞記事等を題材としたスピーチを行います。新聞・雑誌等のニュースから、気になった話題を探しだし、その内容を要約して発表し、それに対するあなたの意見を発表します。

1 スピーチ原稿について

- ① 形式 : 原則A4 一枚以内 新聞・雑誌・インターネット上の情報
(大きな記事で縮小が必要な場合は、相談してください。)
- ② 濃い字で書くこと : 鉛筆、ペンの使用可。ただし、印刷される濃い字で。
- ③ 提出 : 授業の前の週(金曜)午後五時までに、職員室机上まで。
- ④ a) s) e) を必ず書くこと
a 日付 b 新聞・雑誌名等出典(インターネット記事の場合はURL)
c タイトル d クラス・氏名 e 自分の意見

2 スピーチの内容

- ① スピーチの時間は二分以内。
- ② 情報の内容を要約して発表する。情報の内容の骨格に傍線を引き、内容を的確にまとめ、客観的に皆に伝える練習をしておく(三十秒〜一分)。ここでは自分の意見は入れてはいけない。
- ③ ②の内容に対する自分の考えや意見を述べる。原稿に書いたことの棒読みではない。教室のいちばん後ろまで声を届かせるつもりで、少しゆつくりめに話す。文章にして書いた意見の他に、話す内容の流れを大まかにメモしてくるとよい。

*スピーチの留意点(事前準備)

- ・原稿は作ってもよいが、箇条書き程度に止めておくほうがよい。
- ・自分の意見には具体的な体験や身近な話題などを盛り込むとよく伝わる。

(話し手)

- ・聞き手に話しかけるように話す。
- ・声の大きさ、速さ、テンポ、強弱などを工夫する。
- ・原稿を棒読みしない。

(聞き手)

- ・話し手をしっかり見て、テーマや話し手の考えを聞き取る。
- ・自分の考え方との共通点や違いなどを考えながら聞く。
- ・質問や感想を積極的に評価シートに記入する。

3 ファイリングについて

クリアファイル等、保管できるものを用意しましょう。毎回、印刷物が配布されます。最後にそれらを見直す時間を設けるので、なくさないようにしましょう。また、合わせて、自己評価シート1と2、相互評価シートも保管しましょう。

4 相互評価について

毎回、相互評価シートに発表者の評価を行います。評価メモは、発表者本人に返却しますので、アドバイスになるような書き方をします。

評価の観点は、以下の通りです。

- 【内容の目標】
- ① 情報の内容をよく理解できた
 - ② 発表者の意見をよく理解できた
 - ③ 発表内容全体に興味を持てた
- 【基本的な技能】
- A 声の大きさ B 話す速さ
C 発表の態度(顔を上げる、立ち方など)

5 自己評価について

自分の発表が終わったら、「自己評価シート1」の1〜3の記入をします。評価の観点は、以下の通りです。

- 【内容の目標】
- ① 情報の内容を適切に伝達できた
 - ② 自分の意見を明確に伝えられた
 - ③ 発表内容に問題意識を持てた
- 【基本的な技能】
- A 適切な声の大きさと話せた
B 適切な速さで話せた
C 発表の態度(顔を上げる、立ち方など)はよかった

6 まとめのグループ討議について

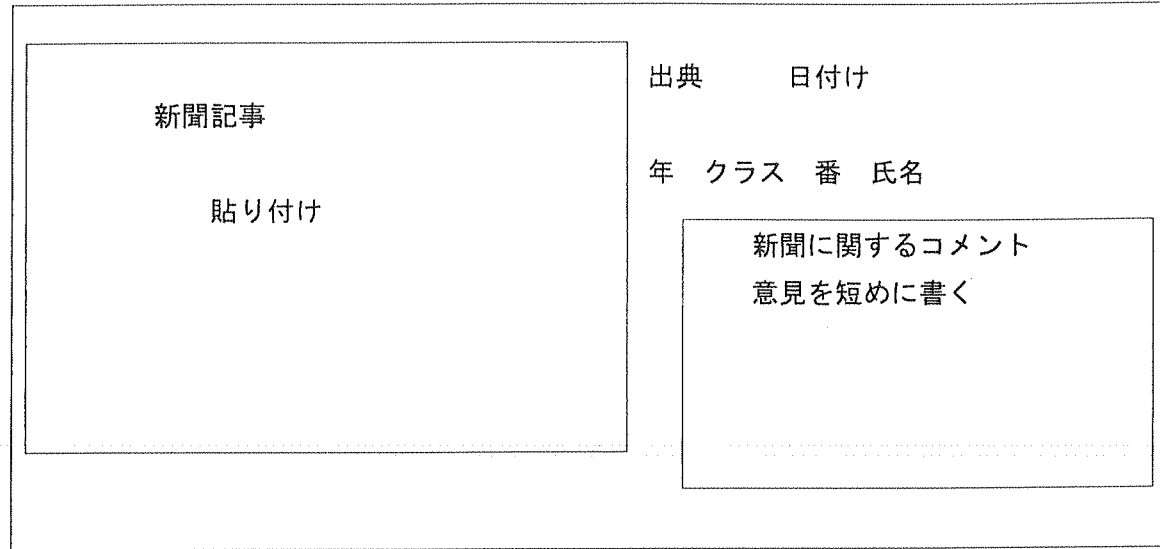
発表が一通り終わったら、「自己評価シート2」の「4 最もよいスピーチをしたと思う人について、どんな点がよかったのか書こう」と、「5 最も印象に残っている記事について、考えたことを書こう」の記入の時間を設けます。

その後、グループ討議を行います。それまでの発表者の内容から、最も記憶に残った内容を討議し、クラス内で発表します。

- ① ファイリングを見ながら、今までの発表で最もよかったと思う内容を一つ選び、「自己評価シートの4と5」を記入します。【10分】
- ② 4〜5人のグループをつくり、司会と発表者を決めます。【5分】
- ③ グループ内でスピーチがよかった人とよかった発表内容を選んで話し合います。【14分】
- ④ 話し合い内容を発表します。(2分以内×8班) 【16分】
- ⑤ 「6 グループ協議を終えて」を記入します。【5分】

スピーチ原稿の例

A4版 レイアウト例



○ 実際の生徒の新聞内容とコメント例

①新聞内容要旨 「移植医療向上 訴えたい」

難病の「突発性拡張型心筋症」を2歳の時発症した洋くんは、病状が悪化中、心臓移植手術を受けるために渡米し、渡航先で亡くなった。当時13歳であった。日本の移植医療の現状をみれば、国内で臓器提供者が現れるのを待つ時間もなかった。両親は、移植の必要な子供が国内で迅速に手術を受けられる体制を整えるためにも、洋くんの死を忘れないで、と訴える。

出典 朝日新聞 2012.6.7(木) 朝刊

生徒コメント 大事な息子を亡くしたのに、「移植医療技術向上に貢献したい」と前向きな発言がご両親に感動した。我々日本は移植医療含む医療技術を更に進化させて、より多くの人々の命を救えるように、医療にかかわる人々だけでなく、洋くんのご両親のように我々一般の人々も皆で協力するべきと思う。

②新聞内容要旨 「増える保育所 保育士足りず」

保育士の確保が難しくなっている背景に待遇面がある。国の賃金構造基本統計調査によると、民間保育士の平均給与は月22万円。「保育士のやる気に頼っており、体力面、気力面の負担に見合う賃金ではない。」保育士の平均勤続年数は8.4年。政府が進めようとしている「子ども・子育て新システム」では、財源の見通しがたたないため、処遇改善は見送りとなった。

出典 読売新聞 2012・5・5(土) 朝刊

生徒コメント たしかに前に比べて保育園は長時間、休日や夜間も開園するようになり、仕事をしている大人の人たちはとても便利だと思うしありがたい。でも保育園で働いている人はとても大変だと思う。知り合いの保育士に聞いたところ、まともに夏休みもとれないらしい。私はこの記事を読んで、自分の子どもは自分で育てたいと思いました。

◎ 右の内容に関する、自分の意見を書こう。

◎ 右の内容に関する、自分の意見を書こう。

二分間スピーチ原稿準備紙 2年組 番氏名「
この用紙を棒読みしてはいけません。手元には持ってスピーチしないこと。
a 情報の日付 () b 出典 ()
◎ 用意した情報の内容を短く要約しよう。

「二分間スピーチ」相互評価シート
評価者氏名 []

発表者氏名 []		
内容について	①情報の内容をよく理解できた(要約)	4 3 2 1
	②発表者の意見をよく理解できた(意見)	4 3 2 1
	③発表内容全体に興味を持てた	4 3 2 1
基本事項	A声の大きさ	4 3 2 1
	B話す速さ	4 3 2 1
	C発表の態度(顔を上げる、立ち方など)	4 3 2 1
コメント(質問・感想・アドバイスなど)		

「二分間スピーチ」相互評価シート
評価者氏名 []

発表者氏名 []		
内容について	①情報の内容をよく理解できた(要約)	4 3 2 1
	②発表者の意見をよく理解できた(意見)	4 3 2 1
	③発表内容全体に興味を持てた	4 3 2 1
基本事項	A声の大きさ	4 3 2 1
	B話す速さ	4 3 2 1
	C発表の態度(顔を上げる、立ち方など)	4 3 2 1
コメント(質問・感想・アドバイスなど)		

「二分間スピーチ」 自己評価シート1

組 番 氏名 []

このシートは、自分のスピーチが終わったら記入し、提出しましょう。

1 二分間スピーチの自己評価をしよう

評 価 ポ イ ン ト		評 価			
情報 の内 容	① 情報の内容を適切に伝達できた	4	3	2	1
	② 自分の意見を明確に伝えられた	4	3	2	1
	③ 発表内容に問題意識を持つことができた	4	3	2	1
基本 事項	A 適切な声の大きさと話せた	4	3	2	1
	B 適切な速さで話せた	4	3	2	1
	C 発表の態度（顔を上げる、立ち方など）はよかった	4	3	2	1

2 スピーチを終えての感想・反省点を書こう。

3 コメント読んで、自分のスピーチの、どんな点が良かったか、どのような点が足りなかったか、分析してみよう。

「二分間スピーチ」 自己評価シート2

組 番 氏名 []

*このシートは、発表が一通り終わったあとで使用します。

*ファイリングされたプリントを見ながら、それぞれの発表を思い出しながら書きましょう。

4 よいスピーチをしたと思う人について、どんな点がよかったのか書こう。
(スピーチの方法について)

5 最も印象に残っている記事について、あなたが考えたことを書こう。
(スピーチの内容について)

6 グループ討議を終えて
「二分間スピーチ」を終えての感想を、自由に書こう。

相互評価シート 生徒記入例（コメント欄）

- 被災地のことを今もしっかりと考えて、自分たちにもできることがあるといいなと思いました。
- 原発をただ無くせばいいと思っていたけれど、現実に原発ゼロは難しいなと思った。電気代が高くなってしまふのは家庭には厳しいと思った。
- 72歳でも3000mを海で泳ごうという姿勢がまずすごいと思いました。自分だとこんなニュースを見つけれないので、知ることができてよかった。こんなカッコイイおばあちゃんになりたいです。
- 要約がわかりやすかった。日中関係の悪化がこんなに経済に影響するとは知らなかった。
- 記事の要約が分かりやすくまとまっていてよかった。
- 内容がよかった。もっとスラスラ読めるとよい。
- 話す速さはたまに速くなったりしたので、一定に心がけるともっと良いかなと思います。それからずっと下を見ていたので少し顔を上げると良くなると思う。

自己評価シートその1 生徒記入例

2 スピーチを終えての感想・反省点を書こう。

- 思ったより短くなってしまっていて、実際にやると違うということがよく分かった。一言コメント以外にも、プラスアルファで自分の意見が言えたらもっと良かったと思う。
- とても緊張した。一言コメントを考えるのが大変だった。記事を決めるのにすごく迷った。
- 思うように発表できなかった。頭の中で考えながら発表していて途中で止まってしまったから、次回は止まらないようにしたい。
- 反省点は、少し早口で話してしまったことです。時間を気にしすぎて、早く言わなくちゃと思い、あせってしまいました。けれども、コメントをつけ足して言ったり、文と文のつながりの言葉を入れたりして工夫できた点は良かったです。
- 保育園の今の状況の記事を選んだのですが、もっと新聞を読んで社会について、さらに詳しく知らないといけないと思いました。今度機会があったら、社会や政治についての記事を選べるようにします。

3 コメントを読んで、自分のスピーチの、どんな点が良かったか、どのような点が足りなかったか、分析してみよう。

- 自分の意見はしっかり言えて良かったが、要約が少し甘かった。声の大きさは良かったが、前を見て話した方がよかった。良かった所はそのまま残して、指摘された所は直したい。
- 長い記事の内容のどこを要約すれば内容がわかりやすいのか考えて要約することができたと思います。一言コメントに書いた意見だけではなく、自分の口から言えたらもっと良かったと思いました。
- コメントを読んで、内容が分かりやすかった点や大きな声でよかったなどを書いてくれて嬉しかったです。また、感想以外にも自分の言葉を入れたところは良かったなと思いました。逆に、評価を見てみると、顔を上げることや、立ち方などの態度が他より低かったなので、そこを次回は直したいと思います。

単元の指導と評価の事例(A 話すこと・聞くこと)

1 単元名

他教科やHR活動の中で調査、収集した情報をもとにしたプレゼンテーションを通して資料を用いて効果的に話す

2 本単元のねらいと年間指導計画上の位置付け

本単元では、主に、自らが調査、収集した情報をもとにしてプレゼンテーションをすることにより、聞き手を説得したり、その思考に変化を与えたりするために、効果的に話す能力を身に付けさせることを目標としている。

聞き手を説得したり、その思考に変化を与えたりするためには、話し手が相手の関心や、知識の有無を踏まえ、何をどのように伝えようとするかを考えて分かりやすく話す必要がある。そこで今回はそれらを考えさせるとともに、視覚資料を用いさせることで、効果的に話す能力が身に付くような学習活動をさせるようにしている。

取り上げる学習指導要領の内容（指導事項）は、A領域「話すこと・聞くこと」のイ「目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。」とする。そして、言語活動はイ「調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。」を参考に「プレゼンテーション」という活動を設定した。

プレゼンテーションのように、調査や資料の収集など必要な情報を得ることが求められる言語活動を取り入れた指導を実現する際、障壁となるのは授業時間を確保する難しさである。国語科の授業時間内で、情報を得るための指導に当てられる時間は十分とはいえず、発表内容の質を確保することが困難な現状がある。そこで、地歴科、公民科、理科、家庭科、特別活動等で課される調べ学習の内容を活用し、国語科での指導をプレゼンテーションへと整理、発展させる過程のみに重点化することによって、限られた時間の中で有効な指導が可能となるのではないかと考えた。

また、このような特定の単元に対して連続した時間を確保することが難しいということもあり得る。その一方で、学校行事等の影響で、連続性が重視されるような指導には適さない時間が発生することも。そこで、本単元では学習活動を分散させることが可能となるように計画した。さらに、2回のプレゼンテーションの機会を設けることによりその能力を発展的に定着させることもねらっている。

【例】

1次	一度目	7月	【LHR】テーマ設定
		夏期休業期間	【LHR課題】調べ学習
		9月	【国語】プレゼンテーションについて学ぶ 資料作成、リハーサル 【LHR】プレゼンテーション体験
2次	二度目	9月	【国語・他教科】テーマ設定・確認
		10～12月	【他教科】他の授業での調べ学習
		12月や冬期休業期間	【国語・課題】資料作成、リハーサル
		1月	【国語】プレゼンテーション実践

3 単元の目標

- 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。
(話す・聞く能力)
- 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
(知識・理解)

4 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 プレゼンテーション
- (2) 教材 職業調べ (LHRでの課題)、各教科の授業、図書資料、インターネット等

5 単元の具体の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
内容がよく伝わるよう、資料や機器などの用い方を工夫して分かりやすく話そうとしている。 必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取ろうとしている。	内容がよく伝わるよう、資料や機器などの用い方を工夫して分かりやすく話している。 必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取っている。	話すこと・聞くことに必要な文章の組み立てについて理解している。

6 単元と評価の計画 (2次扱い)

* 点線の枠内は、国語科以外の授業時間で計画してあるため、その時間に関しては、学習活動のみ記述している。

* 表内の時数は目安である。

【 第1次 】プレゼンテーションを体験する (点線の枠内はLHRでの実施)

教科	具体的な評価規準と評価方法 (判断のよりどころ)	学習活動
LHR		<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの課題についてでプレゼンテーション体験までの流れを把握する。 夏休み中に学年からの課題として職業調べインタビューシートを使って「職業調べ」に取り組む。

国語 (2時間)	<p>[話す能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容がよく伝わるよう、資料や機器などの用い方を工夫して分かりやすく話している。 <p>【記述の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書画カメラで投影しながらプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の学習活動を確認する。 ●プレゼンテーションについて確認する ・プレゼンテーション確認シートでプレゼンテーションの目的・方法などを理解する。
-------------	--	---

<p>●資料を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションプログラムシート、プレゼンテーション投影資料でプレゼンテーションに向けた資料の作成を行う。 ・プレゼンテーション原稿を作成する。 ・原稿のキーワードに印をつけさせる。 <p>[知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことに必要な文章の組み立てについて理解している。 <p>【記述の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切なキーワードを配し、序論・本論・結論を意識した構成になっているか。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容がよく伝わるよう、資料や機器などの用い方を工夫して分かりやすく話そうとしている。 <p>【記述の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や機器などの用い方の工夫や改善につながる記述がみられるか。 <p>(1次全体を通して行動の観察も行う。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グループを作り、「職業調べ」のプレゼンテーションの練習をする。 ・プレゼンテーションを聞き、相互評価表を記入する。 ・プレゼンテーションの練習が終わったら自己評価表を記入する。
--	---

LHR	<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼンテーションを体験する。 ・プレゼンテーションプログラムシートを視覚資料とし、書画カメラで投影しながら「職業調べ」のプレゼンテーションをする。 ・プレゼンテーション書きとめシートに記入しながらプレゼンテーションを聞く。
-----	---

【 第2次 】プレゼンテーションを実践する

国語	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の学習活動を確認する。 ●グループに分かれ自分たちがプレゼンテーションするテーマを確認する。
----	--

各教科等	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等からの課題について調べ学習を進めていく。
------	---

国語 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ●資料を作成する。 ●グループ内で発表の練習をする。
-------------	---

<p>[聞く能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取っている。 <p>【記述の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの内容に対して適当なメモや質問の記入ができています。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <p>(1次に引き続き、必要に応じて行動の観察を行う)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グループでクラス全体に対してプレゼンテーションをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションが終わったら自己評価表を記入する。 ●プレゼンテーションを聞く <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション書きとめシートに記入しながらプレゼンテーションを聞き、質問を考える。 ・プレゼンテーションを聞き終えたら相互評価表を記入する。
---	---

7 指導と評価の留意点

*点線の枠内は、国語科以外の授業時間で計画してあるため、その時間に関しては、学習活動のみ記述している。

【第1次】プレゼンテーションを体験する（点線の枠内はLHRでの実施）

教科	学習活動	指導(◇)と評価の留意点(◆)
LHR	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題についてでプレゼンテーション体験までの流れを把握する。 ・夏休み中に学年からの課題として職業調べインタビューシートを使って「職業調べ」に取り組む。 	<p>◇その後国語科で使用するプリント類をLHR担当の教員に提示し、以降の流れを把握してもらう。</p>

国語	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の学習活動を確認する ●プレゼンテーションについて確認する <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション確認シートでプレゼンテーションの目的・方法などを理解する。 ●資料を作成する <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションプログラムシート 	<p>◇第1次全体の見通しをもたせ、プレゼンテーション1回目(練習)であることを理解させる。</p> <p>◇生徒の実態に応じて、実演やプレゼンテーションの映像資料の活用により、具体的なイメージがわくようにする。</p> <p>◇今回のプレゼンテーションの目的が「働く人の思いを共有す</p>
----	--	--

<p>ラムシート、プレゼンテーション投影資料でプレゼンテーションに向けた資料の作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション原稿を作成する。 ・原稿のキーワードに印をつけさせる。 ・グループを作り、「職業調べ」のプレゼンテーションの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを聞き、相互評価表を記入する。 ・プレゼンテーションの練習が終わったら自己評価表を記入する。 	<p>る」ことであることを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「書画カメラで投影しながらプレゼンテーションすることを意識して、要点をおさえた分かりやすい資料作成をしている」を判断のよりどころとする。 <p>◇聞き手に「職業についての新たな発見」「働くことへの意識の変化」を与えるという観点から原稿を作成するようにさせる。</p> <p>◇発表時は、原稿を読み上げるのではなく、キーワードの確認程度にとどめることが望ましいことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「適切なキーワードを配し、序論・本論・結論など内容のまとまりを意識した効果的な構成になっているか」を判断のよりどころとする。 <p>◇4人程度のグループを作り、プレゼンテーション練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「資料や機器などの使い方の工夫や改善につながる記述がみられるか」を判断のよりどころとする。
---	---

LHR	<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼンテーションを体験する <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションプログラムシートを視覚資料とし、書画カメラで投影しながら「職業調べ」のプレゼンテーションをする。
-----	--

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】

●話す能力
資料に情報を盛り込みすぎている生徒にはスピーチ原稿のキーワードをもとに情報の再整理をさせる。

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】

●知識・理解
キーワードが適切に配されていない生徒に対してはふさわしい単語を指摘したり、提示したりする。

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】

●関心・意欲・態度
記述が見られなかった生徒に対しては、他の生徒が指摘した事項を示し、工夫や改善の具体的なポイントを確認させる

・プレゼンテーション書きとめシートに記入しながらプレゼンテーションを聞く。

【第2次】プレゼンテーションを実践する

国語	<p>●今後の学習活動を確認する。</p> <p>●グループに分かれ自分たちがプレゼンテーションするテーマを確認する。</p>	<p>◇第1次と時間が連続しないことを考え、生徒がこの単元で何を学ぶのかを再度意識づける。</p> <p>◇調べ学習の前に図や表、画像等を利用することによって分かりやすい資料作りの工夫ができることを再度確認する。</p> <p>◇使用できる機器をあらかじめ提示しておく。</p> <p>◇他教科と関連していく際に、学校の実態に応じて次のようなことがテーマとして考えられる。</p> <p>(普通科) 「他教科で課される調べ学習のテーマ)」</p> <p>(専門学科) 「生産物(作成物)●●をPRする」</p> <p>9～12月にかけて調べ学習を課す教科がなければ、国語科から「科目●●をPRする」や読書指導の一環として「ブックトーク」等を課すことも考えられる。</p>
----	---	---

各教科等	・各教科等からの課題について調べ学習を進めていく。
------	---------------------------

国語科	●資料を作成する。	◇KJ法やブレインストーミングを参考にしたグルーピングを通じて持ち寄った情報を整理させる。
-----	-----------	---

<p>●グループ内で発表の練習をする。</p> <p>●グループでクラス全体に対してプレゼンテーションをする。</p> <p>●プレゼンテーションを聞く</p> <p>・プレゼンテーション書きとめシートに記入しながらプレゼンテーションを聞き、質問を考える。</p> <p>・プレゼンテーションを聞き終わったら相互評価表を記入する。</p>	<p>◇発表時に見てよいのはメモまですし、原稿を読み上げることは認めないと周知しておく。</p> <p>◇発表時に出そうな質問をグループ内であらかじめ予測させておく。</p> <p>◇質問は各自一つ以上考えるよう事前に伝えておく。</p> <p>◆「プレゼンテーションの内容に対して適切なメモや質問の記入ができています。」を判断のよりどころとする。</p>
---	--

【Cと判断した生徒への具体的な手立ての例】

●聞く能力
プレゼンテーションの内容をふまえた適当な質問を考えられていなかった場合、適当でないと判断される理由を示すとともに、他の生徒が指摘した事項を示し、改善の目安にさせる。

8 成果と課題(改善の視点)と見通し

第1次の実践では、プレゼンテーションの難しさや、工夫して発表することのおもしろさを感じたようだった。ワークシートの記述からは、発表がうまくいかなかった理由に、発表内容の精査や考察が十分でなかったことを挙げた生徒もあり、発表には情報を詳しく調べることも、また内容がよく伝わるように、情報を再構成したり資料や機器の使い方を工夫したりすることが大事だと気付いたようだった。

一方、第1次の目標を十分に達成したと評価した生徒の中には、中学校の授業でプレゼンテーションを経験している者もあり、身に付けた能力を高校の授業でさらに発展させるという、指導上のつながりの大切さを実感することもできた。

また課題を生徒に課す段階で、どういった情報を集めれば効果的なプレゼンテーションになるか、ということを生徒に周知するためにも、国語科以外の教科やHRで課題を出す場合は、担任や学年団に「何を調べると効果的か」ということを伝えてもらうよう、国語科が働きかける必要があると感じた。

本単元は、この後、第2次のプレゼンテーションを予定している。第1次の成果と課題を生かし、効果的に話す力が定着することを目標に指導したいと考えている。

インタビュー項目

1: 聞く人について

仕事名: _____

会社名・部署: _____

お名前: _____

2: 仕事内容(人が知らなそうなことについて、よく聞いておこう)

仕事に関する具体的な数字 例: 一日のお客さんの数、お客さんの年齢層、働いている人の数、生産量、扱っている品数、ベスト3)

3: 1日のスケジュール 一日の流れを出版社から退社まで細かく教えて下さい(例えばでよい)

4: 仕事のことと接する人 その人との仕事上の関係を具体的に聞く (5人くらい)

5: 仕事に就いた理由

6: 良かったと思う時

夏休みの課題について

この課題(職業調べインタビュー)の内容を利用して、国語総合の時間にプレゼンテーションを行います。そのことを意識して各自しっかりと課題に取り組んでください。

【活動の流れ】

本日 【LHR】

① 今後のLHRと国語の授業で学習することについて確認をする。夏休みの課題について確認をする。

② 【夏休み中】

職業調べのためにインタビューをし、聞き取った内容をワークシートに記入しておく。

※インタビューして関心を持ったことがあれば、本やインターネットなどを利用して調べておく。

※インタビューの際、その職業がよく分かる場面について、許可をもらえた場合には写真をとってプレゼンテーションの際に利用してもよい。

★ポイント

・「知られていないこと」「働いている人でないこと分らないこと」をできるだけたくさん聞き出すようにする。

・理由もしっかりと聞く。

③ 【国語】

プレゼンテーションの全体の構成(話す順序、相手の予測)を「プログラムシート」にまとめる。

④ 【国語】

グループになってプレゼンテーションのリハーサルをする。各自のプレゼンテーションについて相互評価と自己評価をする。

⑤ 【LHR】

学年全体に向けてプレゼンテーションをする。各自のプレゼンテーションを聞き、プレゼンテーション書きとめシートに記入する。

組 番 氏名

- ① 今回の授業の目標
- ② ZHK「伝える極意」 第18回 プレゼン資料を作る

- ① 相手の目的を意識しながら、内容を効果的に説明し、聞き手を説得する。
 - ② 説明を的確に聞き取り、疑問点を質問するなど、説明内容に対する自身の考えを再構築する。
- ※1度は個人で、2度はグループでプレゼンテーションをします。

2. プレゼンテーションとは

限られた時間の中で、明確な目的に基づいた情報を、資料や各種機器を使用しながら、聞き手にわかりやすく正確に伝えること。

↑ 適切

聞き手の理解と納得を得ることも、「意図する方向へ」変化させること。

* 「変化」とは… 「無知」 → 「理解」 「半信半疑」 → 「信頼」

「抵抗」 → 「行動」 「否定」 → 「肯定」

そのためには、「聞き手」にとって何の役に立つか、どのような、何を伝えれば気持ちに変化が生じるかを問い続け、準備を必要とする。

★プレゼンテーションの際 気を付けること★

●構成(内容)の工夫(プロトタイプ)

- (ア) 聞き手がどのような人か、テーマについてどれくらい知っているかを予測する。
- (イ) 要点を整理し、伝えたいことを明確にする。(3点以内を目安にまとめること良い)
- (ウ) 話の内容のまとまりを意識する。(序論・本論・結論)
- (エ) 考えの根拠や理由を明確に伝える。

●資料や機器の利用時の工夫

- (ア) 適切な形態・機器を選択する(黒板、プロジェクター、書画カメラ、フリップ・実演等)
- ※ただし、今回は全員書画カメラを利用する
- (イ) 資料には一目で理解できるように、見出しや項目をつける
- (ウ) 図や表を適切に活用する
- (エ) 重要な部分を強調できるように情報を盛り込みすぎないように、シンブルにまとめる
- (オ) 資料を指し示して注目させたり、ボディラングージを使ったりする。

復習

話す時に気を付けるべきこと

- ・ 会場の大きさに合わせた声の大きさで話す。
- ・ 一文は長すぎないようにし、文の長さを声に出して確認する。
- ・ 無駄な言葉(「えっと」「あの」「その」「等」)は使わない。
- ・ 話の区切りや考えさせる箇所での声の強弱や高低等の変化、問いかけ、適度な間を取る。
- ・ 背筋を伸ばして安定した姿勢で話す。
- ・ 視線は、原稿を見るのではなく、聞き手を見るようにし、反応を確認する。

- ③ その他の紹介されていた「プレゼンテーション」の「プレゼン」の意味を説明する。
- ④ ZHK「伝える極意」 第19回 わかりやすいプレゼン
- 伝える極意1…
- 伝える極意2…
- 伝える極意3…
- 伝える極意4…

7. 大変だと感じる時

8. この仕事の現状と将来について

9. どういう人に向いているか(よりとちの傾向が強いが聞いてみよう) 他に向いている性格など

←-----→					
決まったことをする	1	2	3	4	やり方から考える
一人でする	1	2	3	4	チームワークでする
時間は規則的	1	2	3	4	時間は不規則
同じ場所で働く	1	2	3	4	色々な場所で働く
新しい出会いが少ない	1	2	3	4	新しい出会いが多い

10. この仕事につくための条件(必要な資格、あった方がよい資格、高校卒業後の進学先等)

11. この仕事の見出しを考えてみよう

12. 調べたことなど

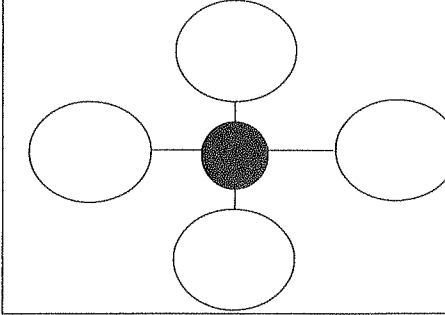
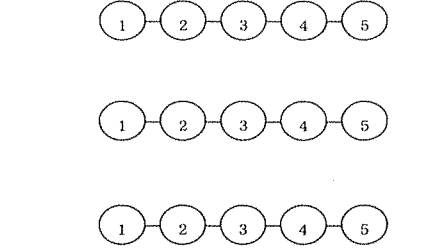
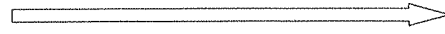
★卒業生の振り返りシート

展開・時間のめやす	用いる資料 (以下の資料の番号)	説明内容のメモ
序論(注目) あいさつ 仕事名 秒		
本論(説明) 秒		
本論(説明) 秒		
本論(説明) 秒		
結論(呼びかけ) まとめ・考えたこと 秒		

タイトル：職業調べインタビュー
 日時：平成24年9月 LHR
 目的：職業調べインタビューの内容を伝え、働く人の思いを共有する
 概要：職業名：
 働く人のイメージの予想：

★発表を組み立てよう。△プログラムシート

プレゼンテーションプログラムシート
 () 月 日 (国語総合②)
 組 番 氏名

資料番号③	資料番号② 関係する人 	資料番号① 職業名
資料番号⑥ 仕事・職場にまつわる数字	資料番号⑤ 向いているタイプ 	資料番号④ 一日の流れ 

資料はすべてのコマを使って作成する必要はない。今回の発表に必要な資料を作成すればよい。資料⑦～⑫は、見出しを自分で考え、テレビ等で用いられているフリップのように用いることができる。また、写真や図表を提示することもできる。

結論	本論③	本論②	本論①
----	-----	-----	-----

プレゼンテーション原稿
 ★原稿の暗記や読み上げではなく、印をつけたキーワードを書いたメモで行えるようにしたい。
 (国語総合②)

資料⑪	資料⑩	資料⑦
資料⑫	資料⑨	資料⑧

組 番 氏名：

組	番	氏名	職業名	印象的だったこと・もっと聞いてみたくなったこと等
2	1			
2	2			
2	3			
2	4			
2	5			
2	6			
2	7			
2	8			
2	9			
2	10			
2	11			
2	12			
2	13			
2	14			
3	1			
3	2			
3	3			
3	4			
3	5			
3	6			
3	7			
3	8			
3	9			
3	10			
3	11			
3	12			
3	13			
1	1			
1	2			
1	21			
1	22			
1	23			

特に良かった人、興味深く聞いた人
(何人上げてもOK)：

全体を通じての感想：

.....

.....

.....

.....

国語総合 プレゼンテーション④ 相互評価シート) 月 (日

組 番 氏名：.....

①②③のそれぞれに関して、A～Eの総合評価として「4～1」のいずれかを「○」
A～Eのうち良かったものがあれば、その項目に「○」

発表者名	() 分	秒 (良い→1 2 3 4→要改善)	コメント・質問		
①構成(内容)について	1	2	3	4	
②資料や機器の利用について	1	2	3	4	
③プレゼンテーション全体に対して	1	2	3	4	

国語総合 プレゼンテーション⑤ 自己評価シート) 月 (日

組 番 氏名：.....

A～Eの総合評価として「4～1」のいずれかを「○」
A～Eのうち、特に意識したものがあればその項目に「○」

発表者名	() 分	秒 (良い→1 2 3 4→要改善)	コメント		
①構成(内容)について	1	2	3	4	
②資料や機器の利用について	1	2	3	4	
③聞いている人の様子・反応はどうでしたか。	1	2	3	4	

① 工夫した部分・うまくいった部分。(具体的に)

② うまくいかなかった部分、次はこうしたいという部分。

展開・時間のめやす	用いる資料 (以下の資料の番号)	説明内容のメモ
序論(注目) あいさつ 仕事名 秒	①	・勤務先 ・歯科医と歯科衛生士の違い
本論(説明) 一日の流れ 秒	②	・毎日仕事内容が異なる
本論(説明) 講習や相談など の行事 秒	写真 (5枚)	・講習や相談の内容・時間・頻度 ・個人と集団とでの気をつけることの違い ・写真(保育園、小学校での歯磨き教室 (高齢者向け講習会))
本論(説明) 仕事で大切なこと 仕事で関わる人 秒	②③	・スタッフ → 保健師・栄養士 → 係長・課長 ・日頃から一人ひとりとコミュニケーションをとるようにしている
結論(呼びかけ) まとめ・考えたこと 秒	⑥	・仕事の目的

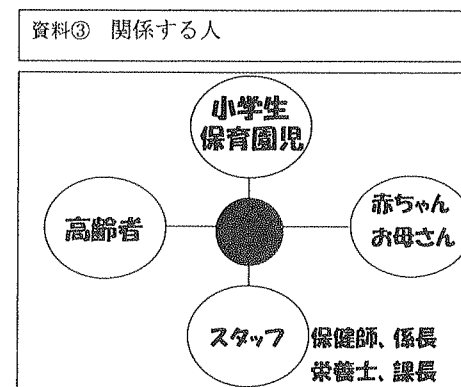
★発表を組み立てよう。(プログラムシート)

タイトル：職業調べインタビュー
日時：平成24年9月 LHR
目的：職業調べインタビューの内容を伝え、働く人の思いを共有する
概要：職業名：歯科衛生士
働く人のイメージの予想：歯磨き教室と聞けばイメージできそう

プレゼンテーションプログラムシート
組 番 氏名： () 月 日 国語総合②

資料⑤ 見出し

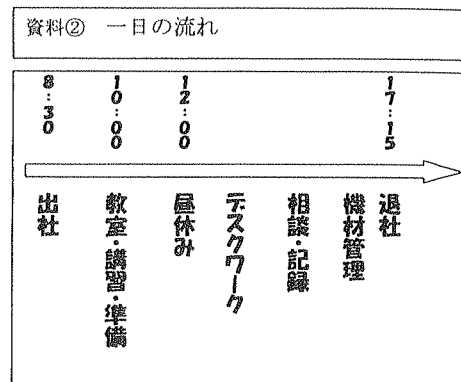
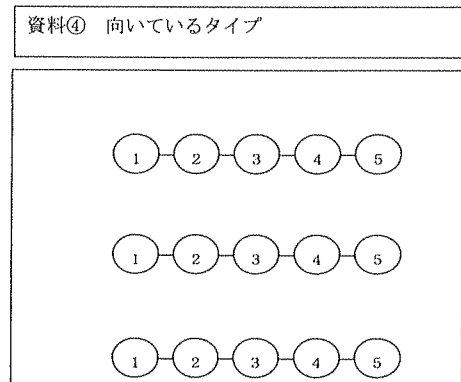
**住民の方の
お口の健康を守り
健康寿命
を延ばす**



資料① 職業名

歯科衛生士

資料⑥ 仕事・職場にまつわる数字



資料はすべてのコマを使って作成する必要はない。今回の発表に必要な資料を作成すればよい。資料⑦～⑫は、見出しを自分で考え、テレビ等で用いられているフリップのように用いることができる。また、写真や図表を提示することもできる。

結論
仕事は「住民の方のお口の健康を守り、健康寿命を延ばす仕事」だといえます。これで発表を終わります。

本論③
仕事をやる上で心がけていることは「コミュニケーションをよくとることです。スタッフ同士がコミュニケーションをとることでスムーズに仕事が進んでいきます。お客様である高齢の方、お母さんや子どもが相談しやすいようにすることも必要です。」

本論②
歯磨き講習は「お年寄り対象にも行って、歯の磨き方のことだけでなく、噛む力や飲み込む力が弱ってくるので、それらを衰えさせないための体操も取り入れています。保育園での歯磨き教室では、写真のように「みんなど一斉に」という感じですが、次の写真のように「リラックスした感じで歯磨きを教える」ということもあります。

本論①
一日の流れはおおまかにはこのようになっていますが、歯磨き教室がある日とない日とで大きく変わります。

序論
★原稿の暗記や読み上げではなく、口部のキーワードを書いたメモで行えるようにすると良い。

本論
今回、私がインタビューをしたのは、歯科衛生士をしている●●さんです。歯科衛生士がなんだか知っていますか？ 初めて聞いた人も多いと思いますが、歯科衛生士は歯科医と違います。歯科医師が歯の治療をするのに対して、歯科衛生士は歯科医の補助をすることもあれば、虫歯にならないための指導を行います。保育園や小学校での「歯磨き教室」をイメージすると分かりやすいと思います。

プレゼンテーション原稿
国語総合③

資料⑪

資料⑨

資料⑦ **心がけていること**

**コミュニケーション
をよくとって
相談しやすい
環境づくりが「大切」**

資料⑫

資料⑩

資料⑧

平成21（2009）年度		
相原咲清香（東京都立荒川工業高等学校）	鈴木 直美（東京都立千早高等学校）	
飯島亜樹子（東京都立保谷高等学校）	畑 綾乃（東京都立一橋高等学校）	
池田 美穂（東京都立八潮高等学校）	廣瀬 愛（東京都立千早高等学校）	
北川すみれ（東京都立戸山高等学校）	福田 浩一（東京都立六郷工科高等学校）	
木村美保子（東京都立広尾高等学校）	松原 志保（東京都立国立高等学校）	
酒井 清香（東京都立千早高等学校）		
平成22（2010）年度		
飯島亜樹子（東京都立保谷高等学校）	滝澤 美恵（東京都立美原高等学校）	
池田 美穂（東京都立荻窪高等学校）	畑 綾乃（東京都立一橋高等学校）	
沖 奈保子（東京都立豊島高等学校）	廣瀬 愛（東京都立千早高等学校）	
北川すみれ（東京都立戸山高等学校）	福田 浩一（東京都立六郷工科高等学校）	
木村美保子（東京都立広尾高等学校）	松原 志保（東京都立国立高等学校）	
酒井 清香（東京都立千早高等学校）		
平成23（2011）年度		
飯島亜樹子（東京都立東村山高等学校）	新垣 智史（東京都立八王子拓真高等学校）	
池田 美穂（東京都立荻窪高等学校）	滝澤 美恵（東京都立美原高等学校）	
北川すみれ（東京都立西高等学校）	廣瀬 愛（東京都立千早高等学校）	
佐藤 紀子（東京都立江北高等学校）	松原 志保（東京都立国立高等学校）	
酒井 清香（東京都立千早高等学校）	宗京 少織（東京都立青梅総合高等学校）	
平成24（2012）年度		
飯島亜樹子（東京都立東村山高等学校）	滝澤 美恵（東京都立立川高等学校）	
北川すみれ（東京都立西高等学校）	廣瀬 愛（東京都立板橋有徳高等学校）	
佐藤 紀子（東京都立江北高等学校）	松原 志保（東京都立国立高等学校）	
酒井 清香（東京都立西高等学校）	宗京 少織（東京都立青梅総合高等学校）	
新垣 智史（東京都立大島高等学校）		
相談役	西辻正副（文部科学省初等中等教育局視学官）	

平成14年秋に発足した自主勉強会「国語実践の会ーフロムT」（=from Teachers, from Tokyo）の活動も10年目を迎えようとしている。私たちはこれまで、「国語総合の指導と評価の工夫」を大きな研究テーマとし、「提案性があること」「生徒の国語力を付けさせると同時に教師自身の授業改善を図ること」を重視して、研究を進めてきた。「教材を教える」授業ではなく、学習指導要領に記された指導事項を踏まえて、生徒に身に付けさせたい言語能力を設定し、ふさわしい言語活動を考え、適した教材を選定するという過程を意識した年間の指導と評価の計画の作成を出発点として、授業改善に取り組んできたのである。

私たちの研究成果は、平成16年、平成20年の2度にわたり『「国語総合」の指導と評価の工夫』という小冊子にまとめてきた。本冊子はこれまでに得られた課題をもとに「第2集」以降の研究成果をまとめたものである。

まず、それまでの3領域の指導に関わる単元の研究から少し視点を変え、関心・意欲・態度を高め、年間の3領域指導を充実させるために、年度初めのオリエンテーションの単元化を試みた。年間の指導と評価の計画の中で最初の単元として位置付けられるオリエンテーションを、単なる科目紹介の時間ではなく、中学校での学習内容を把握し、高等学校での学習内容の見通しをもつ単元として検討した。次に、平成25年度からの新学習指導要領の実施を見据え「A話すこと・聞くこと」の「スピーチ」「プレゼンテーション」2単元について、「単元の指導と評価の計画」を作成した。これらの単元については、現在実践中である。どちらの研究についても、理論をあれこれ議論するだけではなく、実践して検証することを第一にして進めてきた。

これまでの活動を振り返ってみると、グループとして共同研究を続けてきたからこそ、小冊子として「第3集」までまとめられるような研究成果が得られたのだと強く感じる。仲間とともに学び、批評し合うことで、一人では思いも及ばなかったようなアイデアや工夫が生まれ、充実した実践へとつなげることができた。校務が忙しくなる中、平日の夜や休日に10数名が集まるといのはなかなか難しいものである。会員の所属の異動によっては例会への出席がかなわなくなることもある。共同研究を続けていくのは決して楽な道のりではないが、私たちはこうした共同研究の意義を改めて確認し、研究活動を継続していきたいと考えている。そして、「授業実践の会」という名に恥じぬよう、会員それぞれが実践に関わることを意識して研究に取り組んでいきたいと思う。現在進行中の研究も含め、これまでの研究に対してご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。また、本冊子をきっかけとして、私たちと一緒に研究しようという新しい仲間が増えることを願ってやまない。

平成25年度入学生から年次進行により、新学習指導要領が実施される。「国語総合」が新設された前回の学習指導要領改訂の際に発足した「フロムT」にとっては、新しい節目の年を迎えることとなる。私たちはこれを機に、現在の「年間の指導と評価の計画」について、学習指導要領の改訂を反映させた単元の在り方と配置の検討を進めている。本冊子にも現時点での検討内容を示しているが、様々な観点からより効果的な指導や評価のための単元を考えるなど、今後も工夫を重ねていかなければならない。会員一同、設立の初心を忘れることなく、10年後を見据えて、気持ちを新たにしているところである。

最後に、私たち「国語実践の会ーフロムT」がこの冊子を刊行し、実践研究発表会等で発表することができるのも、文部科学省初等中等教育局視学官、西辻正副先生にご指導・ご助言いただくという貴重な機会に恵まれたからに他ならない。会員一同、心より感謝申し上げます。

「国語総合」の指導と評価の工夫 第3集

2012年10月18日発行

編 著 国語実践の会—フォームT
(全国高等学校国語教育研究連合会事務局)

問い合わせ先 東京都板橋区徳丸2-17-1
東京都立板橋有徳高等学校
廣瀬 愛
電話 03-3937-6911